

第16回全国空手道指導者研修会



中学校武道授業の充実に向けた研修会を 全国から64名の参加を得て実施

第16回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）が8月16～18日の日程で開催された。会場の日本空手道会館に中学校保健体育科教員を中心とする64名（うち、初参加43名）の参加者が集まって実施された。

本研修会は、中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導及び専門的な知識・技術の充実を図り、もって中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

◇実施内容

- 1日目：講義「学校武道推進事業の取組について」（日下修次）
基本技術の習得、基本技術の指導法、アクティブラーニングの実践
- 2日目：講義「空手道における安全配慮と憲章の求める指導者像」（日野一男）
中学校武道指導実践法①団体形演武・運営／学校訪問プロジェクト
中学校武道指導実践法②「約束組手」、中学校武道指導実践法③「創作組手」
- 3日目：中学校武道指導実践法④「特別支援学校における空手道授業 身体障がい者」

◇講師一覧

・講義講師

日下修次（全日本空手道連盟学校武道推進委員会相談役）

・講師

日野一男（日本ハラスメント&リスクマネジメント総合研究所代表）、

野中史子（高知県高知市立旭中学校主幹教諭、学校武道推進委員会副委員長）、井下佳織（麗澤大学准教授）、

松原 光（学校法人松韻学園福島高等学校校長）、太田熊野（富山県立しらとり支援学校教諭）、

竹見国雄（神奈川県柔整鍼灸専門学校校長）、中村武志（太田市立世良田小学校教諭）、

岸田耕治（東京都空手道連盟理事 兼 学校武道推進委員会委員長）

・助講師

小山正辰（全日本空手道連盟学校武道推進委員会委員長）、豊嶋建広（麗澤大学 名誉教授）

研修会の模様



『講義：「学校武道推進事業の取組について」』
空手道の学校での普及状況を知る



「基本技術の指導法」
生徒の主体性を引き出すアプローチ方法を検討



「基本技術の習得」前屈立ちを練習



「アクティブラーニングの実践」
講師役、生徒役に分かれてロールプレイ



「アクティブラーニングの実践」
ロールプレイを振り返ってディスカッション



『講義：「空手道における安全配慮と憲章の求める指導者像」』
教師、指導者が意識すべき安全配慮義務について確認



「中学校武道指導実践法① 団体形演武・運営」
基本形1を学ぶ



「中学校武道指導実践法① 学校訪問プロジェクト」
新聞紙突きに挑戦



「中学校武道指導実践法②」
安全な距離を取って約束組手を行う



「中学校武道指導実践法③」 創作組手の発表



「中学校武道指導実践法④」
視覚障がいのある生徒への突きの指導法を実習



「中学校武道指導実践法④」
車いすに乗り、肢体不自由者の立場で考える

令和7年度参加者感想 (抜粋)

今までとは異なる観点での子供達への対応方法を学ぶことができ、大変充実した3日間を過ごすことができました。競技力向上以外の様々な知識を得ることができたと同時に空手以外の生徒との関わりにも役立てられる方法の糸口となる部分を見つけられたと感じています。



本研修を通じ、学校教育における空手道の可能性を実感しました。基本技術の指導法や約束組手の体系的な学びに加え、特に創作組手の実践では大きな気付きを得ました。グループで意見を出し合い、一つの形を作り上げる過程において、互いの考えを尊重しながら協力することの大切さを体験できました。

空手道についての知識や実技だけでなく、リスクマネジメントの講習もあり、改めて多くの命を預かっていること、そして、安心安全な場を作り、みんなが楽しく活動できる授業作りをすることの大切さを考えることができました。



空手道は全くの未経験でしたが、未経験者にも分かりやすいテキストや丁寧な授業により、とても楽しく参加することができました。特に、教員としてどのように授業を進めればよいか、私たちの立場に立って指導して下さったことで、具体的なイメージを持つことができ、大変勉強になりました。

参加する前には空手道は少しハードルが高いと感じていたのですが、歴史、精神や礼など細かい部分から教えていただき、スムーズに取り組めました。初めて基本型1をやったときは全く理解できませんでしたが、動きを分解して練習することで少しずつ理解できました。実際に授業をすることで少しずつ理解し、繰り返し練習することで生徒に分かりやすく伝えられるようになりたいと感じました。

